

令和7年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録（第8回）

日 時：令和7年12月10日（木）午後6時～午後8時6分

出 席：大橋(会長)、加藤(副会長)、内金崎、長谷川、小笠原、岩元、能村、森、広瀬
(敬称略)

欠 席：小林

傍 聴：なし

事務局：高木(西砂学習館係長)、水崎(西砂学習館職員)

1 開会挨拶（会長）

(会 長)：12月8日（月）に青森県で大きな地震があった。寒い時期でもあるので、被害が心配だ。

12月4日～12月10日 第77回人権週間。12月10日は、国際連合総会議で「世界人権宣言」が採択された日だ。

12月7日 女性総合センター・アイムで映画会。小・中・高学生をターゲットに「かがみの孤城」を上映した。学校にチラシを配布したり、広報に掲載したりしたのだが、結果的には高齢者の来場が多かった。しかし、家族連れで参加した人も数組いた。数年前「聲の形」を上映したときには、若者も多く来場したため、若者向けの作品を選んだつもりだったが、今回は少し残念だった。映画はテレビとは違い迫力があるので、感銘の受け方が違う。涙を流しながら見ていた人もいた。身近にある人権課題に触れて、考えてもらいたい。

11月30日 豊泉さんの講座があった。地域に関心が高い人が多いことをひしひしと感じ、実りのある講座だった。

2 協議、報告及び連絡事項

(1) 第7回運営協議会（11/12）の会議録（案）について

(事務局)：修正点等がある場合には、1週間以内（12月17日まで）に事務局に連絡をお願いする。（資料1）

(2) 地域活性化講座について

ア 地域再発見「もっと知りたい！砂川の成り立ち」の実施状況について

(事務局)：多くの委員のご協力をいただき、お礼を申し上げます。資料2・3を基に説明。

(会 長)：アンケート結果を拝見し、講座内容が充実していたことがよく分かった。参加された委員の感想や今後の講座内容の希望をお聞きしたい。

(委員A)：豊泉さんの講座は初めて受講した。原稿を持たず、すべてを理解して話されたことに感心した。約90分の講座で非常に面白かった。砂川家の蔵にはさまざまな史料があるだろうから、現在の当主の理解を得てぜひ公開してほしい。

(委員B)：豊泉さんの講座は、何度か受講しているが毎回非常に面白く、興味深く聞いた。今後の講座内容の希望としては、令和2年11月の講座（～西砂の野仏を訪ねて～）のような、西砂川地区に特化した内容でお願いしたい。西砂学習館で行う講座と

しての意味が高まるだろう。

(委員C) : 毎回楽しみにしている。質問があってもすぐに回答されることに感心する。見習わないといけない。次回の講座も楽しみだ。

(委員D) : 過去のさまざまな話を忘れていないことが不思議なくらいだ。以前は、高齢になっても免許は返上しないと話されていたが、柴崎での講演会ときには自転車で来館したと言っていた。一緒にフィールドワークをしても、自分たちがついていけないくらいの健脚で驚かされる。

(会 長) : 今後の講座内容について、B委員から西砂川に特化した内容でとの要望があったが、その他にもフィールドワーク等の希望があれば伺いたい。

(委員E) : 現在の課題やこれからの砂川について伺ってみたい。立川における砂川地区の発展は、まだ非常に可能性があるが、昔からの封建的なやり方、考え方が残っている部分があり、表には出ないがそれが大きな問題としてあると思う。そのため、豊泉さんも話したがらないかもしれない。

(会 長) : それは、長く砂川にお住いのかたの意見だと思う。新住民は歴史を少しでも知りたいということが先にたってしまう。

E委員の言いたいことは十分に理解できるが、講座内容については、豊泉さんと慎重に検討する必要があるだろう。公言できることなのか、講座として成り立つ内容なのか。

オスプレイの講座をしたときにも感じたことだが、事実を知ってもらうことが目的で、オスプレイを導入することに関しての意見を聞きたいわけではない。オスプレイとはどういうものか、それが入ることによってどうなるのかは、横田基地の近隣の住民として知っていてもいい。しかし、難しいこと（政治的なことや思想的なこと）になってはいけない。

(委員E) : 豊泉さんは、十分に考えておられる。砂川はまだまだいくらかでも発展できるように、思うように進んでいない。こうしたいという思いはいっぱいあると思っている。

(会 長) : 砂川家の蔵の中は、歴史民俗資料館とタイアップしているのか。

(事務局) : 市史編さん室で調査しているところだ。

(会 長) : 別のお宅の2階の史料のことも心配だ。歴史民俗資料館に預けても、展示までいかないものが多くあり、埋もれてしまうことが危惧される。

(委員E) : 代が変わると、身を粉にして大切に守っていこうという気がなかったりする。

(会 長) : 各家庭で持っている貴重な史料について考えないといけない時期ではないか。屋敷内の史料や祠等もなし崩し的に無くなると本当に困る。中に入れてもらい、説明を聞く機会があれば、大切にしてもらえないのではないか。史跡に富んだエリアなので、うまくまとめていきたいし、豊泉さんから多くのことを聞いて知りたい。

(委員F) : 豊泉さんの講座は、フィールドワークも含めて数回参加した。ご本人は90歳超になられ、その間の地域の変遷をご覧になり、どのようなことを感じているのかを知りたい。過去のことを学ぶことで、現役世代に継承してもらいたいことは何なのか。農家の方は、それぞれのお宅の蔵に様々なものをお持ちだ。しかし、「地域財団」のような組織を作って保存しないと、個人の品物はご家族の考えでどうにでもされてしまう。ただ「言うは易し、行ふは難し」ではある。養樹園が美術館を作った。そこに、農機具などを一緒に展示してもらえないかという希望がある。

(会 長)：年明け早々に、過去の講座を加味しながら打合せを含めて予定を立てたい。
豊泉さんの講座は、謎解きのようで聞き手も引き込まれるので、できるだけ話を聞ける場を設定したい。

イ 西砂ウィンターイベントの進捗状況について

(事務局)：資料4を基に説明

(委員E)：松中小・西砂小以外の児童（例えば、私学に通っている地域の児童）は参加できるのか。

(事務局)：周知する術はないが、西砂川地域在住の児童であれば受け入れる。

(会 長)：申込の電子申請の中に、要望の自由記入欄を試験的に設けたところ、3人が意見を寄せてくれた。このことについて、どこかで議論する機会を設けたい。

委員の皆さんは、短時間でもウィンターイベントに来ていただけるとありがたい。

(ウィンターイベントに協力していただける委員) 5人

ウ にしすな親子塾の進捗状況について

(委員G)：11月28日 バスボムづくりに17人の子どもが参加した。講師（にしすな親子塾でも依頼する講師）は、アロマの効果を中心に説明に取り入れてくれて、子ども達は楽しそうに製作していた。

にしすな親子塾では、香りを通して親子に会話を生み出し、石鹸を製作するワークショップを行う。対象は「小学生以上と保護者」としたいが、講師と相談のうえ、4歳以上の弟妹は同伴および作成を可能とした。事前準備はほとんど講師が行ってくれた。児童館では、小学生以上は自由に遊べるが、保育は行っていないので、幼児だけで過ごすことはできない。

(事務局)：幼児の受付については、電子申請の申込方法を含めて検討する。

(委員A)：作品は一人1個か。材料費は、1個で260円なのか。

(委員G)：香りを体験するオイルをいくつか準備しないといけないのでそうなる。工作系のワークショップは費用がかかるが、講師は相当抑えてくれていると推察する。

(委員B)：幼児からも徴収するのか。

(事務局)：製作するのであれば徴収する。

(委員F)：親子でひとつ作るのか。

(委員G)：親子で相談しながらひとつの作品を制作する。

(会 長)：親子で会話しながら一つのものを作ることは意味がある交流だと思う。ご協力いただける委員は、事務局に連絡してください。

(にしすな親子塾に協力していただける委員) 3人

(3) 地域学習館運営協議会交流会について

(事務局)：資料6を基に説明。

(参加予定の委員) 5人

(4) 地域学校コーディネーターとの情報・意見交換会について（2学期分）

(事務局)：資料7を基に説明。西砂小学校コーディネーターの1名から欠席連絡があ

った。学校だよりは目を通していただき、当日お持ちください。

(会 長)：立川市全体で、地域学校コーディネーターの会議等があったのか。

(委員F)：ありません。

(会 長)：松中小学校コーディネーターの新人の方が参加してくれば、新しい顔ぶれになる。顔見知りの関係を作っておくことがいざというときに大切で、すぐに動き出せるのではないか。顔を合わせて学校の内容を聞きながら、地域として支えていく組織ができあがり、地域で子どもを育てることにつながると考えるため、今後も続けていきたい。生涯審で議論していても、他館でここまで意見交換をしているところはない。

(他館では、Aさんが第三小・第七小、立川第三中のコーディネーターをされ、さらに自治会や町内会にも関わっているので、ひとりでコンタクトが取れてしまうし、こまめに活動をまとめた資料を地運協で配布しているので、地運協委員が学校の動きを知ることができる。他館で学校だよりを配布されていることを聞き、西砂でも取り入れてもらった。)

(委員F)：社会教育委員のブロック研修のため国分寺に出向いた。グループワークのメンバーに、中学校の教員経験者が2人いて、「地域学校コーディネーターが機能しない」ということは、教員側、コーディネーター（F委員）側と同様の認識だった。

(会 長)：なぜ機能しないのかという話してほしい。ざまざまなところでの話題で、切り口が見えてくるかもしれない。

(委員F)：地域行事に参加者が少ない。健康フェアや防災訓練、おまつりのような地域行事を共有できるカレンダーのようなものがあると、そこでつながりが発展することがあり得るのではないか。

(会 長)：地運協委員もそれぞれ選出母体があるので、そこで共有してほしい。

(委員A)：自治連西砂川支部のホームページ（みんなの西砂川）には、各支部・各町会の活動内容が掲載されている。

(会 長)：新住民にも地域のことを知ってもらうために「みんなの西砂川」の紹介を、西武立川駅に掲示した。

(委員E)：依頼すれば「みんなの西砂川」に掲載してくれるのか。

(委員H)：このエリアのオープンなことであれば大丈夫だと思う。社協も地域のイベントを掲載依頼している。

(委員G)：児童館も毎月のおたよりと大きなイベントを掲載依頼しており、新しい情報はすぐにアップしてくれる。ただ、欲しい情報が一覧になっているわけではないので、カレンダーを見て確認するというひと手間はかかる。

(会 長)：まゆだまづくりも情報がない。

(委員F)：まゆだまづくりは西砂会館の運営委員会が行っていて、地域に周知していない。

(会 長)：素晴らしい伝統行事なので、知らしめなければいけないと思う。

(委員C)：どんな行事も縮小傾向だ。例えば自治会の夏祭りなど青少健でお祝いを渡して参加させてもらってきたが、小さい自治会にはそれを辞退される。お祝いをもらうところからも出さないといけなから大変だという理由のようだ。

(委員E)：地域で盛り上げていくには、そのような関係から始まると考えている。

(委員C)：自分もそう思う。

(会 長) : 今後は、学習館の情報は広報たちかわやきらり・たちかわ、地域の情報は「みんなの西砂川」を委員各自で確認して、この会議に参加してください。

(5) 各委員からの報告及び連絡事項について

(委員) : 来年1月25日(日)西砂川文化会でうどんづくりを行う予定。昨日(12月9日)関係各所にご案内状を発送した。

1月11日(日)西砂会館で午前:まゆだまづくり、午後:賀詞交歓会。

(委員) : 12月20日 放課後子ども教室(くるプレ)で、餅つき大会。つきたてのお餅を食べながら、子どもの様子を見てください。

(会 長) : がにがら田んぼのお米か?

(事務局) : がにがら田んぼでは、もち米は作っていない。

(委員) : 米店を営む方が、もち米を60キロ運んでくれた。もち米を蒸すために使う薪を宮ヶ瀬ダムまで取りに行ったが、今年は台風や雨が少なかったため、川の水が少なく流木がなかった。そのため、掻き集めてきた。

(委員) : 児童館ではクリスマス絡みのイベントの準備にとりかかっている。

12月7日(日)自治連西砂支部の防災訓練に、児童館の子ども達と一緒にスタッフとして参加した。事業計画(5年計画)を立てて、今年やっと実現した。アルファ米を開けて、確認して、お湯を入れて、時間を測ってという作業をすべて子ども達(中学生2人、小学生3人)にさせていただき、貴重な経験ができた。来年は立川第七中で総合防災訓練が行われるため、自治連西砂支部の関わりは未定だが、児童館が参画できるように考えてくださっているようだ。

1月24日(土)公益財団法人と立川子ども劇場、西砂児童館の3団体が共催で「どこでもステージ」を行う。古典芸能の「能」を、世界的に活躍されている3人の演者に目の前で見せてもらえる。その後、「謡(うたい)」「小鼓(こつづみ)」「仕舞(しまい)」の3グループに分かれて子ども達が担当し、最後に合わせて「演じる」という体験をする。子どもから大人までが対象なので、よろしければ白足袋か白靴下を持ってご参加ください。

2月の節分、3月の子どもまつりの準備も始まった。ご協力いただくことがあると思うので、そのときはよろしく願います。

12月の議会が終了するまでは来年度の事を申し上げることはできないが、とりあえず今年度いっぱいしっかり取り組んでいきたい。

(委員) : 12月21日(日)の「第2回たちかわCivic Activities Fes!!」チラシをお配りしたので、お知り合いで市民活動に関心があるかたがいたら、ぜひお声がけください。

12月9日(火)立川市子ども・若者ネットワーク事業の研修会。この事業の事務局は「NPO法人育て上げネット」がやっている。不登校経験が長かったりして、社会生活を円滑に営むことの困難な若者を、地域で応援する「HHT(初めて働くわ立川で)」という取組を推進している。そういった若者の就労は何が難しいのかを通信高校の教員に聞くと「絶対的に経験不足」とのことだ。「職場体験」できる企業等を探しているが、受け入れるほうにマンパワーが必要になるため、なかなか難しい。しかし、そのような場がないと、社会に出て行けない若者がいる。少しでも受

け入れ先を紹介していただけるとありがたい。この事業は、若者支援として立川市で取り組んでいるため情報を共有した。研修会には長谷川委員、岩元委員も出席してくれた。

(委員) : かつては立川第六中学校の生徒を職場体験で受け入れてくれていた自動車整備工場の人も来られていた。今は受け入れていない。受け入れることはとても大変なことだ。職場体験したら、報酬を与えてほしいという意見もあった。

(委員) : それは、個人的な意見だと思う。

(委員) : 社会に出すことは不安だから、長く学校に在籍させてほしいという親がいる。

(委員) : 高校は3年間で卒業なのに、6年間在籍したいという親がいて驚いた。学校にいれば安心かもしれないが、子どもにとってどうなのか。砂川高校の先生の話も興味深く、この研修会に参加しなければわからないことが多くあった。

(会長) : 重度の知的障害や肢体不自由等の障害がある場合には、手当や支援が充実してきたが、いわゆる「グレーゾーン」の子は時期が来るといきなり社会に放り出される。今までは学校に守られてきたが、自力では生活が難しい。「ケーキが切れない非行少年たち」が話題になったが、行き場がなく一番苦勞していると思う。

(委員) : 教育もそうだ。特別支援学校等がある。

(会長) : 重度知的障害の方が入る施設が東京都では見つからず、北海道や東北に行かなければならないという新聞記事を見た。親も死ぬに死ねない心境だと思う。

(委員) : 「食堂」は大盛況だと聞いた。「子ども食堂」との違いと狙いを教えてほしい。

(委員) : 子どもだけが対象ではない「誰でも食堂」というスタンスの食堂が増えている。

(委員) : その目的は「場づくり」なのか。

(委員) : 食の支援だけでなく、誰かと顔を合わせて食事して「孤食」解決の効果を期待している団体もある。

(委員) : 市はそれを認めて支援しているのか。

(委員) : 子ども食堂は、条件を満たせば市から助成金が出ている。しかし、対象は子どもだけで、親や地域の人ではない。そのため、社協の「子ども・多世代エール寄附金」で賄っている部分がある。多くの団体がその寄附金を活用しているので、寄附金が不足すると活動が途絶える可能性がある。50人以上の参加者がある食堂もあり、人気があることは社協も承知しているので「子ども・多世代エール寄附金」のPRが必要だと考えている。

(委員) : 12月14日 立川ユネスコ協会で「ウクライナ」に関するイベントを企画している。20代を中心に松中団地に避難してきた10人と日本人との交流が目的で、現時点(12月10日)で定員20人のところ、23人の申込を得ている。しかし、松中団地に住むウクライナ人の参加がない。それが悩みで、市民協働課から本人のところに案内を送ってもらったので、あと数日のうちに申込みがあるといいと思っている。

市民推進委員会では、来年7-9月期の企画を始めた。10以上の講座が提案され、少しずつ講座数が増えてきた。

個人的には、3団体に関わっている「第2回たちかわCivic Activities Fes!!」に参加する。

(委員) : チラシの締め切りに間に合わなかったため参加団体に記載されていないが、一

番町傾聴クラブも参加する。

(委員) : 最新の情報は、ホームページをご確認ください。

(委員) : 12月発行の冬号は、中央図書館の特集で、裏面だけでなく3頁の記事だ。図書館長に書いてもらった。

3月発行の春号では、「言語によって表現される芸術・文化を学び、感性を育て心を豊かにする」ことを特集するため、国文学研究所の二人の教授に明日(12月11日)取材に行く。春に市民企画講座で、短歌と俳句の講座がそれぞれあるので、それに絡めて記事にする予定だ。

(委員) : 12月9日 今年最後の講座をした。最初に受講された時と比較して、すごく上達された受講生を見て、驚いたり嬉しかったりした。

12月5日 来年2月17日～19日開催の「EXCEL講座」の打合せ。「市民企画講座支援管理表」を初めて拝見し、講座実施までに関係者のみなさんがいろいろと準備をしてくださっていることを改めて知り、ありがたいと思った。

3月3日(火)4日(水)「初めてでも安心!写真編集の第一歩」講座。これからテキストを作りこんで準備したい。

12月から民生委員を務める。先日「委嘱伝達式」に出席した。厚生労働大臣が変わったため委嘱状が間に合わず、立川市の委嘱状だけいただいた。前任者からの大量の資料を基に引継ぎした。資料には様々なことが記され、一生懸命されていたのがわかるので、自分もがんばってやっていきたい。

(委員) : 最近、高齢者にとって声を出すこと、話をするのがとても大切だと盛んに言われていて、市内でも「ボイトレ講座」をするところが増えている。市民企画講座から生まれた団体もあり、砂川学習館(現在の活動は上砂会館)、柴崎学習館、西砂学習館で活動している。シルバー大学で募集した時は、申込者がシルバー大学始まって以来の記録を作ったそう。最近、声の調子が悪いと感じ、思い当たることと言えばボイトレやコーラスを休んだことかと思う。ボランティアは傾聴なので、関係はないだろう。「脳梗塞」が心配でかかりつけ医にかかり、MRIもとったが、筋肉の衰えなので治すことはできないと言われた。ボイトレに興味があるかたはぜひ参加してください。現在は、上砂会館で行っているが、砂川学習館がオープンしたらそちらに戻る予定だ。

(事務局) : 12月20日「立川から考える戦争と平和・北エリア編」の最終回をアイムで行う。北エリア編は南エリア編に比べて受講者が少なめなので、オンラインでの配信もしている。オンラインの活用については、生涯審でも話題に出ていると思う。会場に来られる人のほかに、オンライン受講希望者が8人いる。参加実績は西砂3人、幸5人と多くはないが、来年度以降オンライン講座の希望者が増えていくのか、それともやはり対面がいいとなり収束していくかはわからない。今の時点では、介護や育児などで外出できない人も受講できるよう、学びの機会を増やすべく取り組んでいる。お忙しい時期だが、ご興味があれば参加してください。

(事務局) : 施設予約システムは、1月5日から新システムが稼働する。11月下旬に利用者向けに5学習館で6回説明会を行い、約230人が参加された。利用団体にシステムを円滑に使っていただくとともに、窓口で受け付けるシルバー会員の習熟も課題なので、両者に適切に使ってもらえるように丁寧な対応をしたいと考えている。

12月26日 西部連絡所が廃止。廃止後の事務室はすべて学習館で使うことになるが、備品等は廃棄業者が決まるまでは現状のままになる。また砂川学習館も、本来は12月20日にオープンの予定だったが、2月までずれ込むということで、引っ越しは早くても1月中旬になる。引っ越し後の机や椅子も業者が処分するということなので、レイアウト変更しようにもできない。市民スタッフルームの開設もできるだけ早くしたいため、現在取り組んでいる。

(委員E)：砂川学習館のオープンは4月になるのか。

(事務局)：今のところ、2月中旬を目指している。

(委員F)：施設の予約はできるのか。

(事務局)：オープンしたら、随時できるようになる。

(委員F)：予約しようにも、どんな部屋があるのかもわからない。

(事務局)：内覧会を考えているようだ。実際に部屋を見ないと、どこが自分たちの活動に適しているかわからないと思う。ご迷惑をおかけして申し訳ない。

(委員G)：児童館対抗ドッチボール大会で、高学年は7連覇で全勝優勝を果たした。低学年は決勝トーナメントまでは1位通過だったが、その後敗退して3位だった。低学年の子は泣いていたが、負ける経験をしたことは「来年強くなるステップ」ととらえて切り替えてほしい。そのことを報告する。

(会長)：そういう体験も、子ども達にとって本当に大切だ。

3 その他

(委員F)：HHTの報酬について、この会議で考える時間を設けてほしい。経済至上主義だけど、何かをしたら対価をとという考え方だけでいいのか。理想は、大切なものはお金だけではないと言いたいが、現実生きて行くためにお金が必要なので。話し合っただけで結論は出ないかもしれないが、議題として皆で考えられたらと思う。

(会長)：職場体験と報酬について、議論する機会をつくりたい。

(1) 学校だよりについて

(事務局)：お目通しになり、コーディネーターとの意見交換会の時にお持ちください。

(2) 次回(第9回)は、令和8年1月22日(木)18:00～

(委員B)：詳細は、決定次第お知らせする。

第10回運営協議会の日程 *令和8年2月12日(木)18:00～

<配布資料>

- ・資料1 令和7年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録(第7回)(案)
- ・資料2 地域再発見「もっと知りたい!砂川の成り立ち」のアンケート結果
- ・資料3 講師 豊泉喜一氏による西砂・一番町地区の地域再発見講座の実施状況
- ・資料4 西砂ウィンターイベントの実施状況について
- ・資料5 にしすな親子塾の進捗状況について
- ・資料6 地域学習館運営協議会交流会の開催について(通知)

- ・資料7 令和7年度 第2回西砂川地区地域コーディネーター及び西砂学習館運営協議
会委員の情報・意見交換会 次第（案）
西砂小学校、松中小学校、立川第七中学校の学校だより（資料番号なし）